



TITLE:

讀者欄：寄書歡迎

AUTHOR(S):

---

CITATION:

讀者欄：寄書歡迎. 天界 1934, 15(163): 31-32

ISSUE DATE:

1934-10-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/166904>

RIGHT:

# 讀者欄 寄書 歡迎

## 太陽黒點觀測を評す

六 甲 崔 部 生

(前略)吾々の太陽黒點『相對數』の觀測は昨年六月の末から始めました。

ウオルフの案出した『相對數』は觀える儘の黒點面積と密接な關係を有すると稱せられて居ます。

太陽活動の消長は黒點現象そのものを研究する上に於て相當重要なる資料と言ひ得るでせう。

然るに黒點面積と一致比例しない相對數が黒點現象研究の資料として有する價值如何と云ふことに就て若干の疑問を生ずる次第であります。

ウオルフが相對數に思ひ付いたその事は正しく良案と申すべきでせう。

彼が支人によつて興へられたる過去の不備なる觀測結果を整理する上に於て、又將來の觀測を確保するために簡單なそして迅速に出来る方法を提供することに於て——全く無意義のことゝは申されますまい。

然し乍ら群を十となし、數を一とする『相對數』の Weight 如何、黒點面積を簡單に知り得るため『相對數』の數へ方を變更することは如何、

尤もそれには困難が伴ふでせう、黒點の形狀は様々でありますから、然らばストウエハリストの如き種々の型に當てはめて計上する一種の Formula を案出することは何うであるか、如斯試みが嘗てなされたることがあるか、等々の疑問が

漫然と頭に浮んで來ます。

ウオルフ相對數はチュリヒでブルンナ氏が三人(別々)がゝりて毎日見て居られます。

之れに東京のソイト博士其他三十六人かの篤志家が報告を寄せて居られます。其多くは獨逸、瑞西等の人々、例の二時の Moye 氏(佛)も其一人です。英國には數あるアマチア太陽觀測者の中で『相對數』を數へて居る人は殆んど無いらしいです。

St nyhurst College でやつて居る黒點面積の觀測は目によるものらしく、之れと幾分協力して居る伊のカタニヤも同様と思はれます。

Greenwich では只今は Cape 及印度ニケ所と協力して寫眞を取り、之れによつて黒點面積は精細に調べられ、古いところは不完全乍らも、約六十年前からの記録があります。

ヤーキースでは別個の方法で面積を投影して計りチュリヒでも面積を計上して居ます。

上記の中 Greenwich は Cape や印度の協力に依り、Stonyhurst は Zürich 及び Catania からの材料補充により、年中殆んど欠測の無い現状です。

黒點面積の觀測既に然り、Zürich の Brunner 氏は約四十に垂んとする相對數報告で既に持て餘して居る形らしいです

から更に屋上屋を重ねるが如き観測の必要を認めないやうにも思はれます。

面積を見ることは容易なことではありません。三十米突位の長焦點の玉で直接大きい寫眞を取り、縁邊修正の勞を取らずにヤキース流の球面目盛の上に投影して黒點面積を容易に測ることは好ましきことならむも、先づ以て吾々の力に及ばず、又寫眞を撮るところは少くとも北滿、南洋委任統治島、内地三ヶ所位に設けて欠測を免るゝ要あり、又一代や二代で終るやうでは徒勞なる故、仲々の大事業であり、それだけの價值ありや否やは頗る疑問でせう。

黒點の觀たるが儘の消長變化を記録することは既に行き詰りなりとは恐らく尤もの儀かと存じます。

私共の知る限りに於ても形狀の變化、緯度並びに經度による消長白紋の分布等々調べらるゝだけ調べ盡されて居り、今後は唯だ單なる routine work に過ぎないでせう。

半暗部面積を計算せる人あるを聞かす之れは至難なるべし。白紋との關係、紅焰との關係、コロナとの關係等の descriptive の方面も『黒點は何か?』『黒點が Solar Atmosphere の活動に如何なる關係ありや?』『外部との關係』殊に『他の太陽系天

體との關係』等を知り行く上に必ずや役立つものと思はれます。

然しながら今後黒點そのものだけの性質に就ては epoch-making の發見があるとするればそれは Spectroscopy の領分か電磁氣學の領分で爲さるゝものであらうと感ぜざるを得ません。差向き黒點各部の spectrum を縱横から研究すること、單光寫眞との比較 magnetic disturbance 等の要素研究等大がゝりな仕事に俟つ外無かるうかと思はれます。

降つて吾々は何うしたら良いか、さゝやかなる Routine Work ならば繼續性を最も必要とします。差向き四吋位な小望遠鏡で日々寫眞でも取つて、後で測微器で經緯度面積などを檢べて見たいなどの考が無いでもありません。終りに一言申し度い事は何の道に於ても素人の半可通程厄介で而も有害なものはありません。吾々馳け出し者はあの深遠廣汎な學問の一部分に就てすらも物を言ふ資格は無いでせう。學識基礎の無いものが觀測が堂のこのと言ふだけ無望と思ひます。吾々は唯だ humbly に専門家の指導に従つて與へられたる仕事することに満足を見出し得ればそれにて足ると存じて居ます。

昭和九年八月

## 珍 通 信 !!

御多忙中御迷惑乍ら一寸御尋ね致します。私は毎朝海岸に出て日の出を拜みに行きます内に、左の眼に黒いチイサイ煙のカタマリの様な物が見えます。眼球の動く方向に、必づ見えます。俗に言ふ處の何かの靈でありますまいか、兎に角私には何んであるかど解りませんが、何んであるかど知りたいのです。

(後略)

兵庫縣魚崎 小玉留吉